



2025-26 年度  
福山西ロータリークラブ

# 例会情報

第1633回(17)

会長 河村 直孝      幹事 小林 崇

クラブ会長テーマ



「明るく楽しくみんなで奉仕」

日時	2025年12月2日(火) 12:30～
場所	福山ニューキャッスルホテル
例会行事	点鐘・ソング「君が代・奉仕の理想」 ゲスト・ビジターの紹介(出席報告参照) 会長報告 幹事報告 出席報告 SAA報告 スマイル報告 プログラム情報 その他報告
その他情報	メイクアップ情報(来週分) メイクアップ情報(再来週分) 今後の行事予定 クラブ活動報告



**UNITE  
FOR  
GOOD**

## 【 会 長 報 告 】



11月30日に福山北と鞆の浦 RC クラブによるロータリー奉仕デイが参加者100名ほどで行われました。

参加団体は、英数学館インターアクトクラブ・福山海洋少年団・こぶしが丘学園・ちゅうごく環境ネット・田島漁協・ロータリークラブ G11 のクラブ会員と家族が参加されました。

点鐘の後、子供たちは海の世界学習

その他の人たちはアマモの種子を泥団子に播種する作業そしてロープに括り付けてボートで少し沖まで持っていき植え付け完了です。

その後、海岸を清掃して親睦の食事会へ。

弁当とバーベキューそしてアイゴをニューキャッスルの料理人がアクアパッツアと天ぷらに料理して試食しました。

少し硬めですがおいしくいただきました。

その後海で釣りをして15時には終了しました。

この事業は昨年始まったばかりで後5年は必ずやるとのことです。

来年は、西クラブも大勢で参加してみたいと思いました。

## 【 幹 事 報 告 】



No.	内 容
1	第 2710 地区事務局より ・2025-26 年度ガバナー年度 月信 12 月号 ・財団室 NEWS 2025 年 12 月号
2	
3	

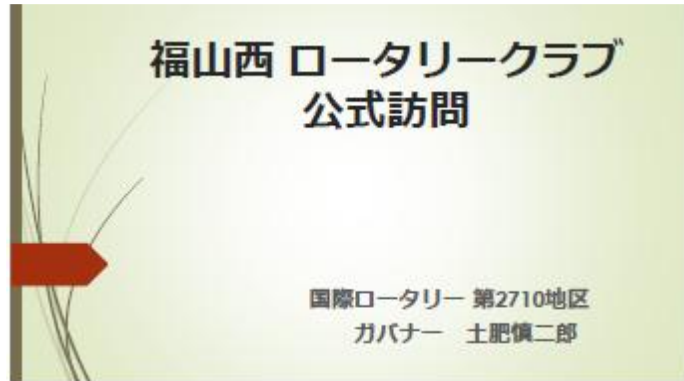
# 【プログラム情報】



## 《ガバナー 土肥 慎二郎 様 卓話》



国際ロータリー第 2710 地区  
ガバナー 土肥 慎二郎 様



皆さん、こんにちは。本年度ガバナーを務めます、東広島 21RC の土肥慎二郎です。  
どうかよろしくお願ひします。10月の地区大会では大変お世話になりました。  
福山西 RC からは、16 名の方にご登録をいただきましたこと、感謝を申し上げます。と同時に、会場が狭かったこと、また、公式訪問がこのように遅くなりましたこと、お詫び申し上げます。



さて、福山西 RC は 1990 年 6 月 12 日に、福山北 RC をスポンサーとして創立されたと聞いております。その年度の RI 会長は、アメリカのヒューアーチャーさん、テーマは「Enjoy Rotary」でした。私の本年度の地区信条と同じです。

ところが、今年度より国際ロータリーは、RI会長のテーマを廃止しました。理由は簡単です。2017年に発表したロータリーのビジョン声明とそれを実現するためのロータリーの行動計画がなかなかクラブに浸透しないからです。最近3年間のRIテーマです。



- 2022-23年度 笹田（ささだ）会長ジェニファーイマジン・ロータリー
- 2023-24年度 瀬尾（せお）会長 ゴードン世界に希望を生み出そう
- 2024-25年度 鹿内（しかない）会長ステファニーロータリーのマジック

このようにRI会長が毎年違うテーマを出され、それに則ってクラブを運営する、これではいつまでたっても「ロータリーのビジョン声明」が浸透するはずがないのです。2000年ごろより、世界のロータリアンの数は減り続けています。そして毎年16万人が入会して、17万人がやめている、しかもそのうちの2万人は入会3年未満の会員である、このような現実があります。



## ロータリーのビジョン声明

私たちは、  
世界で、地域社会で、  
そして自分自身の中で、  
持続可能な良い変化を生むために  
人びとが手を取りあって行動する世界を  
目指しています

これに危機感を覚えた国際ロータリーは、組織に問題があるのでは…と考えました。

そして全会員からアンケートを取り、専門家の意見も取り入れ、今後ロータリーという組織がどのような組織になったらいいのかを謳ったのがこの声明です。

「私たちは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取りあって行動する世界を目指しています。」

わたしは、この声明のポイントは2点あると思います。

ひとつは、ロータリアンが手を取り合って行動すればもっと素晴らしいことが出来る、ということ、

そしてもう1点は自分自身の中で…という部分、これが私は一番重要なポイントだと思っています。

札幌東 RC に塚原さんというパストガバナーがおられるのですが、次のように言っておられます。  
「ロータリーは困っている人を助けてあげることだと思いがちですが、実際は助けられているのは自分の方かもしれません」 みなさんどう思われるでしょうか？

そしてこのビジョンを実現するために「ロータリーの行動計画」が発表されました。

この行動計画は4つの優先事項からなっています。

「より大きなインパクトをもたらす」

これだけを読みますと、多くの方はポリオの根絶をはじめとする規模の大きいプロジェクトを想像されるのではないかと思います。そして「クラブ単独でそんなに大きなことは出来ないよ」

そのように思われる方もおられるかもしれません。

ところが、ここでいうインパクトとは規模や成果の大きさを表しているわけではありません。

ロータリーの行動計画でいうインパクトとは、そのプロジェクトが、いかにその人たちの人生を変えたか？ということです。

昨年度国際ロータリーのアーチック会長は、ダイエットを例にしてこのように言われました。

ダイエットにおいては、体重が何キロ減ったのか？というのが大切なわけではありません。

いかに健康になったか？ということが大切なのです。

そのように考えますと、我々ロータリアンが行なう地域の地域社会への様々な活動は、どれもが、意義深い、インパクトのあるものになり得ると思います。

福山西 RC では、中学校吹奏楽祭りへの支援や「グリーンラインを愛する会」への支援といった、地元に着した活動を長年されています。

また、外国人に対しても、日本語スピーチコンテストを支援されたり、ベトナムでの日本語教育の支援、最近ではカンボジアの児童養護施設への支援など、様々な、人の生活を変え得る、活動をされていますこと、敬意を表します。

## より大きなインパクトをもたらす

## 参加者の基盤を広げる

続いて「参加者の基盤を広げる」ですが、これはその名の通り会員を増やすことです。

国際ロータリーでは、会員増強を対内的な最重要課題ととらえています。

そして「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」これも、

参加者の積極的なかわりを促す  
適応力を高める

会員増強にもつながる話しだと思いますが、要は「会員がクラブに何を求めているか？」ということを実際に考えなければならない、という事だと思います。

ロータリーって組織は結構アンケートが好きで、あちこちでアンケートをとっています。会員がロータリーに求めるものとして、国によって違いがあるそうです。

日本においては最も多かったのが「親睦」でした。それがアメリカでは「倫理観」です。

世界全体でみると「情報の透明化」これが最も求められていることのことでした。

それから日本のロータリアンに「あなたにとってロータリークラブの価値とは何ですか？」と聞いてみたそうです。皆さんはどう答えますか？

一番多かったのが「自己研鑽、学習、成長」だったそうです。

2番目は「地域社会への貢献」

3番目は「生涯の友人、そして魅力的な仲間」だったそうです。

それから年齢別での傾向として、若い会員は「人脈が広がる、とか、事業の機会がアップする」これを求めているのに対して、比較的高齢の会員さんは「生涯の友人、魅力的な仲間」これを求めている傾向があったようです。

それから DEI、ロータリーでは、会員一人一人にとって、居心地がよく、帰属意識が持てるクラブ運営が何より重要だと考えております。

2025-26年度 RI会長メッセージ

「UNITE FOR GOOD」



よいことのために  
手を取りあおう

そして、この声明に基づいて、昨年度国際ロータリー会長エレクトだった、ブラジルのマリオさんが、このメッセージを発表しました。

「よいことのために手を取りあおう」

現在、ロシアとウクライナが戦争をしています。イスラエルとハマスもそうです。

このような分断されがちな昨今において、「一緒に手を取りあって、いいことをしましょう！」

そういったシンプルかつ力強いメッセージだと思います。

ところが突然6月に会長エレクトを辞任されました。

理由はよくわからないのですが、相当な事があったのだと思います。

そして、新しい会長としてイタリアのフランチェスコ・アレツォさんが就任されました。

「継続性」を重要視するRI理事会は、年度メッセージの変更をしませんでしたが、私はこの新会長よりメールをいただいたときに、大変驚きました。

前任者のマリオさんは、何が何でも「会員増強」、その重要性を述べられておりました。

ところがアレツォ会長は、「会員同士の信頼と友情」、それが大切だと言っています。

そして地区ガバナーやクラブの指導者に、ロータリーの中では謙虚さ、とか人間性、思いやり、そう言ったことでリーダーシップを発揮してください、そのように言われました。そして、ロータリーは私たちを変えてくれます。

そのために「よいことのために手を取りあおう」

RI会長  
フランチェスコ・アレツォ (イタリア)



そういうメッセージをあらためて投げかけられました。

#### ロータリーの誕生 1905.2.23



さて話は変わりますが、ロータリーが誕生して今年で 120 年が経過しております。

ロータリーを作った人は、ポールハリスという青年弁護士でした。アメリカのシカゴという街で、弁護士事務所を構えて商売は繁盛していました。

しかしながら弁護を依頼してくる人は、私利私欲のために嘘をつく人ばかりだったので、そんな人たちを相手にしているのが寂しくなりました。

そこで業種の違う人たちを集めて、社交クラブを作りました。

会場を一定にせず、場所を変えて例会を開いたのでロータリーと名づけられました。

ロータリークラブに集まる人は、事業家や職業人なので、話題は商売の話が中心になります。

しかしながら一業種一人なので競争がなく、会員は他人とは思えないくらいに仲が良くなり、お互いの恥を平気で話し合っ、困ったことは相談しあう、慰めあう、進んでお互いを助け合う、そのような親睦が生まれました。さらには会員同士の利益を目的としての商業取引も行われるようになったそうです。

当時の定款には、クラブの目的は「会員の親睦と事業拡大の増進」と書いてあったそうです。しかしある日、この定款を見たある人がこのように言いました。

「こんな仲間だけのことを考えているだけのクラブは長続きしませんよ。」

会員以外の人たち、そして地域社会に役に立つことをした方がいいでしょう。

それなら私も喜んで入会しますよ」そのように言ったそうです。

#### クラブの目的 (定款)

1. 会員同士の親睦
2. 事業の発展  
(物質的相互扶助)
3. シカゴ市の最大の利益を図り、  
市民としての忠誠を尽くす

#### シカゴ市内に公衆便所を設置



これを聞いたポールハリスは定款に「シカゴ市の最大の利益を図り、市民として忠誠を尽くす」

という一文を追加しています。

そしてクラブが最初に行った活動が、シカゴ市への公衆便所設置運動でした。

当時のシカゴにはお客さん用のトイレが、百貨店もしくはバーくらいにしかなかったそうです。

そこで、トイレを使いたい通行人は、百貨店で何かを買うか、バーで一杯ビールを飲む必要がありました。そこでポールハリスは、抵抗する団体を抑えて市内2か所に公衆便所を設置しました。

そのおかげで多くの市民が安心してトイレを使うことが可能になったわけです。

このようにロータリーの最初の奉仕活動は、単に金銭を渡すだけではなく、市民生活に影響を与えるような、いわゆる地域社会に「インパクトをもたらす」活動だったのでした。

奉仕、サービス、という言葉が最初にロータリーに持ち込んだのは、シェルドンという人です。

経営学者であった彼は次のように言っています。

自分の事業が発展するためには、自分のもうけを優先するのではなく、まずお客さんのことを考えてく

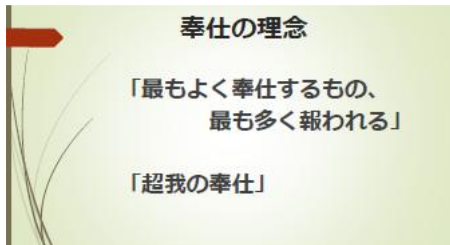
ださい。

そして、その得られた利益は自分が独占するのではなく、従業員や取引に関係する人たちと適正に再配分すること、そうすることで最終的には継続的な事業の発展につながるようになります。

これを「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」という言葉で表現しました。

この職業奉仕を実践することによって、ロータリーの会員の職場は活気を取り戻して、成功者も多くなり、ロータリアンは信念を持つことが出来ました。

そして「利他の心」をもって行動することは、単に職業を成功させるだけではなく、社会をも良くする、のちに「超我の奉仕」という言葉が生まれました。



この2つの言葉をロータリーでは「奉仕の理念」と呼んでおります。これが初期のロータリー思想の歴史ですが、この「奉仕の理念」を実践しようとしたロータリアンを紹介いたします。



それはカーネル・サンダースさん、皆さんご存じのケンタッキー・フライド・チキンの創業者です。

1920年、29歳の時に、アメリカ、インディアナ州のロータリークラブに入会しました。

そこで「他の人に最高のサービスをする人が、最も利益を得る人だ」ということを学びます。

そして、その後ケンタッキー州にうつり、ガソリン・スタンドの経営を始めました。

当時のケンタッキー州は道路が舗装されておらず、車はどれも埃まみれで走っていたそうです。

そこでサンダースさんは、車が店に来ると、まず車の窓を洗うことにしました。

そして、ラジエーターの水やタイヤを点検して、最後に「ガソリン入れましょうか？」と聞いたそうです。当時そういうサービスはほとんど無かったようですが、彼は、道を聞くためだけに店に入ってきたお客さんにもそのようにしたそうで、これが評判となり店は繁盛しました。

それでも、なおサンダースさんは「来る人にもっと喜んでもらえること」を常に考えていました。

ある日、お客さんのほとんどがおなかを減らしていることに気づきます。

「車にガソリンが必要なように、お客さんにはおいしい食事が必要だ」そのように考えました。

そして「サンダース・カフェ」という、たった6席しかない、小さなレストランを併設しました。

元々、彼は料理が上手だったそうです。なぜかというと6歳の時に父親を病気で失い、働きに出ていた母親の代わりに小さい弟と妹の面倒を見ていたからです。料理の方法や味付けのコツを子供のころより母親から学んで、家族のために料理を作っていました。

そして単に料理が上手なだけではなく「人が喜ぶ料理を真心を込めて作る」という信念を持っていました。シェフの仕事のみならず、洗い場、レジ係を一人でこなし、店には「おいしくなかったらお代は結構です」とまで書いてあったそうです。

特にフライド・チキンは人気があり、それが美味しいということで店は繁盛したそうです。

さらに人に喜ばれるために考えたのがモーテルでした。

「旅行者は安心して心地よく泊まれるところを探している」ということで店のそばにモーテルを作りました。

また仕事以外でも、他人に喜ばれることが生きがだったサンダースさんは、街の孤児院をたずね、恵まれない境遇の子供たちにアイスクリームやお菓子の提供をしています。特にクリスマスの日にはタ

ーキーを料理して毎年のように訪問していたそうです。サンダースさんが救ったのは子供だけではありません。アルコール中毒患者の更生にも積極的に取り組んでいます。時にはアルコールを絶たせるために自分のモテルを使わせたこともあったそうです。こういった功績から 44 歳の時、ケンタッキー州知事から、カーネル、陸軍大佐の名誉称号を受けました。

このように「一生懸命働き」そして「人の喜ぶことを真心を込めてした」サンダースさんですが、良いことばかりではありませんでした。

49 歳の時、レストランが火事で全焼してしまいます。また 65 歳の時には、近くに高速道路が出来たために店の客さんが減り、店が破産してしまいます。たくさんの奉仕をしたにもかかわらず、結局は報われなかったのです。

さて彼はどうしたのでしょうか？

このまま年金生活になる方法もありましたが、最後まで一生懸命働くことを選択しました。

彼にはフライド・チキンが残っていました。評判の良かったフライド・チキン、その作り方に改良を加えました。そして圧力釜を用いて、彼にしかできないフライド・チキンを完成させました。

そしてそれをレストランで提供するのではなく、作り方だけを教えて、各レストランのメニューとして出してもらい、そしてチキン1ピースにつき数セントのロイヤリティをもらう、というまさにフランチャイズ契約のはじまりともいえる事業を始めました。

最初はなかなか契約が取れなかったそうですが、彼にはチキンへの絶対的な自信がありました。

1軒一軒店を回って根気よく説明し、納得の話し合いが出来れば契約したそうです。

時には自分からパスする店もありました。

調理場が清潔でない店や、サービスの行き届いていない店とは契約しませんでした。

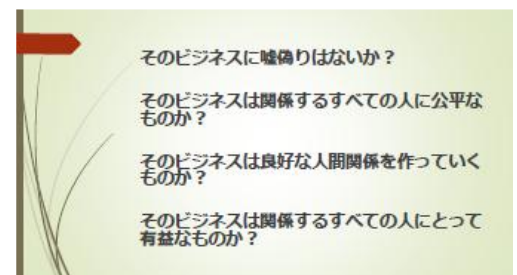
そこで用いた原則が、次のことです。

そのビジネスに嘘偽りはないか？

そのビジネスは関係するすべての人に公平なものか？

そのビジネスは良好な人間関係を作っていくものか？

そのビジネスは関係するすべての人にとって有益なものか？

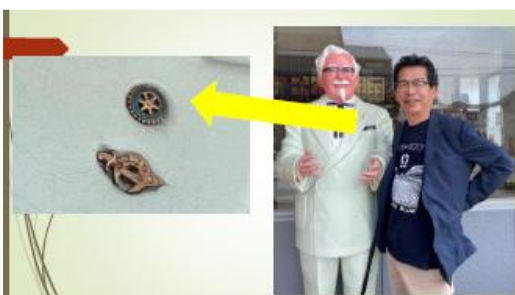


どこかで聞いたことがあるテストです。

こうして1年間で7つの店と契約を結び、すべての店が大繁盛します。

すると今度は店のほうからサンダースさんへ連絡が来るようになり、4年後にはアメリカで 200 店舗、さらに5年後には 600 店舗となり、アメリカ最大のフランチャイズレストランとなりました。

こうして65歳の時にすべてを失った人が、ケンタッキー州で最も有名な人といわれるまでになりました。彼は晩年のインタビューで「あなたが得たもので一番うれしかったことは何ですか？」と聞かれた時に「孤児院の子供たちが私をサンタクロースのように慕ってくれたことです」と答えています。



先日、この、世界で最も有名なロータリアンと2ショットを撮りました。彼の胸には私と同じロータリーのバッジがついていました。

みなさんもケンタッキー・フライド・チキンに行ったときは見てみてください。



さて話は変わりますが、現在、国際ロータリーの最優先事項はポリオの根絶です。「あと少し」といわれて数十年が経っておりますが、私はこの活動を支持しています。なぜなら、医学的に根絶が可能だからです。ポリオの原因となるウイルスは人の中でしか生きられません。ですから、一旦根絶してしまえばこの地球上からなくなります。

ポリオワクチンには2種類あり、口から飲ませる経口のもの、ウイルスの毒性を減らしたものを注射で投与するものがあります。日本でも2012年まではこの経口ワクチンを使っていましたが、今ではより安全な注射での投与をしています。パキスタンのような貧乏な国ではまだこの経口生ワクチンを使っています。1本が3ドル、40滴の量があります。一人2滴飲ませるので、20人分となります。



一人当たり20円くらいになります。

パキスタンの出生数は年間630万人であります。日本の9倍です。死亡率も高くて、新生児死亡は1000人当たり40人、25人に一人は亡くなる計算です。それでも5歳以下の子どもは推定で4400万人といわれています。しかもちゃんとした戸籍のようなものではありません。そこでは「見つけたら片っ端からワクチンを飲ませる」という方法をとっています。



これは高速道路でのバスの中での投与です。

バスのすべてを軍が止めて、ワクチンを飲ませることが義務づけられています。3人でチームを組んでバスに入っていきます。



写真の後ろには、銃を持った軍人がいます。こうやって私たちを守ってくれているのです。



バスの中の様子です。左側がワクチンを飲ませているところ、右が指に印をつけているところです。

こうやって投与が済んだ子供の左の小指にマジックで印をつけていきます。そして印のない子を見つけてはワクチンを飲ませる、こんな原始的なやり方でワクチンは投与されています。ワクチンの投与は、バスや列車の中でするものもありますが、多くは戸別訪問、家に直接出向いて投与をしています。



イスラム教では、家族以外の男性は家に入ることができないので、女性が多く活躍しています。彼女たちのようなワーカーがパキスタンには 40 万人おられます。

パキスタンでは、宗教的な理由でワクチンを拒否する家族もおられます。特に過激な思想の人はワクチンを西側のものとして毛嫌いされる人もいます。

悪態をつかれたり、突き飛ばされたり、殴られたり、時には殺されることもあるそうです。そんな危険なところで、1日8時間、週5回働きます。給料は1か月22000円です。それでも皆、誇りを持ってこの仕事をしています。ジェンダーギャップ指数というのがあります。

これは男女格差を数値化したものですが、パキスタンは148位と“ドベ”でした。

そういった中で、ポリオワーカーとしての教育を受けることができたこと、そしてこの仕事が自分の国の子供たちの役に立っている事、それが彼女たちの献身的な活動のモチベーションとなっています。



チーム・ポリオ・ジャパンのメンバーです。

驚いたことに、パキスタンにチームとして入っている国は、しばらく日本以外にありませんでした。

今は、フランスやベルギーからも入っています。

大体15名くらいのメンバーで、年10回、我々日本の仲間が前線で頑張っています。

ただ私は、この活動に参加して思ったことがあります。その一つは、やはりワクチンを正確に子供に投与するのが自分は下手だなあ、ということです。プラスチック製の容器がぼろいこともあって、2滴ぴったり落とすのはコツが要ります。ポリオワーカーの方は約1秒で投与するのに、私のような素人は時に10秒以上かかったりします。下手をすると、何滴も投与してワクチンを無駄にすることもあります。



私が社会に貢献する一番の方法は、ここではなくて、自分の職場なのだと改めて思いました。それから、日本に帰ってきて思ったことがあります。それはポリオを根絶出来たら、とてもいいことがあるという事です。先日の報道で、日本の出生数が70万人を切った、というニュースがありました。それでもポリオがあるうちは、ワクチンとして一人20000円かかります。日本ではより安全な不活化

ワクチンを投与するからです。70万人いれば140億円、もしポリオが根絶されれば、毎年それだけ浮くことになるのです。そしてこの人たちは、インドでポリオに感染した人たちです。歩くことも困難で、物乞い以外の職業に就くことは出来ません。ポリオを根絶して、このような子供のない世界を目指したい、そのためにも、これからも皆様のご協力をお願いいたします。





10月18日の日経新聞全国版です。

ポリオ根絶にロータリーが取り組んでいることを紹介しています。ロータリーでは、これまであまり活動を宣伝しなかったのですが、最近では周りの方を巻き込む意味でも、このような広報にも力を入れるようになっていきます。

ところで、シカゴにある国際ロータリーの本部の会長室にはこんなものが置いてあるそうです。

「ロータリーに参加する10の理由」とあります。

奉仕する機会、とか自己の成長、とか友情とかありますが、最後にあるのが「楽しい」であります。



私の今年度の願いは、「地区の皆さんがロータリーを楽しむことです」「ロータリーを楽しむ」ということは、ロータリーを知ることだと思えます。皆様のクラブの例会を魅力ある価値のあるものにする、ことだと思えます。クラブで楽しいイベントを企画する、ことだと思えます。いろいろな奉仕活動、その達成感を楽しむ、ことだと思えます。次の世代の若者たちの成長を楽しむ、ことだと思えます。

そして、最終的には「世界の平和」という大きな夢を描いていただきたいと思っております。



最後のスライドです。

「よいことのために手を取りあおう」

福山西ロータリークラブの今後のますますのご発展を祈念して、話を終えたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。



# 【その他報告】



## 《各種表彰等》

### 【誕生日】



《12月2日生まれ 河村 直孝 さん》

《12月2日生まれ 柴田 順一 さん》

《12月7日生まれ 原田 茂実 さん》

### 【米山奨学生奨学金授与】



2025年度米山奨学生 カツ イン さん

# 【クラブ活動報告】



特にありません。

**UNITE  
FOR  
GOOD**

2025-26 年度 RI 会長メッセージ